

第92回 横浜市公立大学法人評価委員会会議要録

日時	令和4年8月19日（金）14時00分～16時00分
開催場所	横浜市役所18階会議室 みなと6・7
出席委員	工藤委員長、有賀委員、今市委員、河合委員
欠席委員	大久保委員
法人	小山内理事長、相原学長、後藤附属病院長、遠藤副学長、中條副学長 ほか
事務局	高倉大学担当理事、澤田大学調整課長、中村大学調整課担当係長 ほか
開催形態	公開（傍聴者 なし）
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第91回横浜市公立大学法人評価委員会会議要録（案）について</li> <li>2 令和3年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果（案）について</li> <li>3 第4期中期目標及び中期計画について</li> <li>4 公立大学法人横浜市立大学第3期中期目標期間終了時の検討について</li> <li>5 その他</li> </ol>
決定事項	

議事	<p>主要な発言は、以下のとおり。 （○：委員発言、△：法人・事務局発言）</p> <p><b>※議題1について&lt;資料1&gt;</b> 特に意見なし</p> <p><b>※議題2について&lt;資料2&gt;</b> （事務局より資料2の説明）</p> <p>○細かいことかもしれませんが、P4の業務実績の総括的評価のところの、教育面ではというところの、下から2行目の後半に、指標が目標を大きく超える結果となり、と書いてありまして、教育はA評価なんですよ。S評価の例えば地域貢献では、大いに評価できるとか、大いに超えるとか書いていないので、この「大きく」というのはやめた方が良いのではないのでしょうか。具体的な数値を見ればわかると思うのですが、超えてはいましたけれど、そんなに大きく超えてはいなかったもので、他と合わせるためにも、この大きくは無くした方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>△前々回お配りさせていただいた大学の方の評価資料にございますが、学生の満足度については、目標が80%に対して、令和3年度は86.4%、FD/SDにつきましては、FDの目標が75%に対して、令和3年度89.2%、SDについては75%に対して78.2%。それからアクティブラーニングの導入率については、目標が80%に対して、令和3年度は94.3%以上でございます。</p> <p>○かなり大きく超えているものもありましたけれど、兼ね合いがありますから「大きく」は取るということでもいいですね。</p> <p>○ここまでくると細かいことしか言えないのですが、例えばP6の医療分野に関する取組の所の、附属病院の後のブランク、このブランクは埋めることになりますよね。そして、そのすぐ下に三次救急とコロナ禍での高度医療と書いてあるけれど、これは公文書なので三次救急医療とした方が良いでしょう。それから、横浜市の公立大学法人の評価委員会の委員になって、しばらく慣れるまでに時間がかかったのですけれど、「附属病院では云々、附属市民医療センターでは云々」となりますよね。それぞれ固有名詞ですよ。ところがP7の4の先進的医療・研究に関するところに記載されている附属2病院、これは医学部に属する2つの病院という意味ですよ。附属2病院と出てきて、その下に附属病院と出てきますよね。これらの区別に慣れるまでに時間がかかったのです。要するにA病</p>
----	---

院とB病院があって、A病院を呼ぶときには附属病院、B病院を呼ぶときにはセンター病院。これは、良く知っている人たちだけが読むのなら全然問題ないと思うのですが、ある意味、格式高い公文書というレベルにするのなら、医学部に附属する2つの病院とか、2病院とかに書き換えたりとかが必要でしょうし、「附属病院では」とか、「センター病院」ではなくフルネームで書いた方がよい。これらの病院については、文面のどこもかしこも皆フルネームにしておいた方が、読み手にとって困らなくなるのではないかと思います。多分そういう意味でやはり困る箇所は、P8の財務内容の改善の所に、大学部門と2病院部門とありますよね。これも大学部門と2つの附属病院に関する部門という形になるので、話し言葉をそのまま書くのは恐らく「正直で良い」とされるかもしれないが、公文書として残すときには、ちょっと気を遣った方が私は良いのではないかと思います。

○どこかに（以下センター病院という）というやり方もあるし、2つの病院の時は、附属2病院なり、附属病院とセンター病院なりにするとか。また、P7の3行目の所で両病院とありますね。これも2病院と言うのか附属2病院と言うのか、整理して統一しましょう。

○今の話で、P6の下から3分の1くらいの評価Sのちょっと下の所の、附属市民総合医療センターと出てきますが、これはいわゆるセンター病院と一緒にという理解でよろしいですか。

○最初に使う時はフルネームにして、後は略称でセンター病院にするとか、わかりやすくした方が良いでしょう。

私からも2、3よろしいでしょうか。前も申し上げた、P1ですけれど、このペーパーは、そもそもこの委員会の意見としてまとめなければいけないが、我々のいろいろなコメントをもとに、事務局が切り貼りして体裁を整えてくださったのですけれど、真ん中、4つ目の段落ですけれど、今後も「国際都市横浜にふさわしい大学」とあるのですけれど、これは皆さん耳慣れた言い方なのでしょうか。我々の中から出てきたというよりは、事務局の方で国際都市横浜と書かれたものですが、何か国際都市横浜というのは一般に言われていることなんですか。

△国際都市横浜につきましては、本市の国際施策に関する方針ということで、国際戦略を作っていて、令和3年2月に改訂させていただいているのですが、その中で横浜国際都市ということで位置づけさせていただいています。

○その時の国際都市とは、何を以て国際都市とご判断されているのですか。外国人の人数が多い、あるいは基地が多いとか、他の日本の良く似た所と言えば神戸とか、東京で言えば晴海とかありますね。他の市区町村と比べてone of themの国際都市だと言うのか、何なのですかね。ちょっと違和感があるのですが。例えば町中を歩いていても外国人がぞろぞろいて、看板も日本語だけではなくバイリンガルな表示があって、誰が来ても外国人に優しい都市になっているかと言えばそうかなという気もするし。

△明確な国際都市の定義をなかなか申し上げられないのですが、例えば指標としますと、前回もお話させていただきましたが、横浜市にありますパシフィコ横浜につきましては、全国のコンベンション施設の中では最も国際会議等が誘致されているということ。今コロナで影響が出ていますが、国際的な客船の誘致を進めておきまして、インバウンドのある2019年には全国で最も多く誘致しているという状況がありますので、そういった観光面やコンベンションなどでも横浜市が国際的な役割を果たしていこうとしております。

○横浜市の市政として国際都市たらんと表明しておられるということなのですね。今なっているわけではないですね。横浜市の文書で出てくるのは、それは勝手なのですが、当委員会でそういう意見が必ずしも出てきていないので、そういう生煮えの言葉を使って良いのかなということが気になったんですね。

△情報提供として、大学では、YCUミッションを設けておきまして、「国際都市横浜とともに歩み、」との冒頭で始まっております。ですので、大学としては国際都市横浜ということ

を意識しながら活動するということはありません。もちろん委員会としてのお考えとはまた別だとは思いますが。

○そういう意味では、国際都市をさらに目指すという意味ですよね。今のお話を全部統合すれば。だから国際都市ではないという言い方も多分違うのだろうと思いますが、国際都市であるという言い方を委員会の責任で表現して良いのかどうかという話ですよ。国際都市たらんとする横浜にふさわしい大学という言い方であれば嘘ではないですよ。

○私も気になって伺うのですが、大学の方針としてこういうことを謳っていらっしゃることなんですよ。そしたら、それが分かるように書けば良いのかなと思います。大学がきちんと表題に掲げてこうなりたいと言うのだったら、それにふさわしい、それを目指してみたいなものをこちらが認めるというか、それにのっかって大学の方針に合わせてということだったら良いのかなと思います。

△本学の理念であるYCUミッションが、「国際都市横浜とともに歩み、」という言葉で始まっています。

○ここに大学のミッションに言う国際都市横浜と入れれば、その表現そのままが良いのではないのでしょうか。

○P6の一番下の先ほどのご説明で、病院の二つ目の○が、前は●だったのを表現を変更して○にしたというご説明でしたが、それに異存はないのですが、真ん中にある国際化の所の●ですね、これは協定校が83校で目標に達していないので●の表現なんですけれど、これは我々の意見として100校を目指せというのを●で言うんですかね。数が多ければ良いものでもないし、量より質というか、特にコロナでかねてからの関係維持が難しい面もある中で、やっていることはやっているけど今後も頑張るねという表現にすれば、●ではなくて○にするという手もあるのではないかと思うのですが。その場合は、○とする表現は例えばですけど、「協定校も着実に増え、83校に至っているが、引き続き充実に努力されたい。」と言え、努力目標はあるにしても、やることはやっているねというニュアンスになりますがいかがでしょう。

△100校という目標が本当に良いのかどうか、考えていけないと思っております。第3期中期計画を策定した時に比べまして、世の中も変わっておりますので、数ではなくておっしゃるように質が大事であろうと思います。どのような交流をしているかをもう一度見直し、次の中期計画に協定数を入れるかどうかしっかり検討していきたいと思っております。

○P1の下から2行目のところの、必要に応じて計画の修正を求めること等を基本方針とし、と書いてあるのですが、私は認識していなかったです。必要に応じて計画の修正を求めることをこの委員会がやるということなんですよ。そうすると、今のお話の100校をもう少し、100校にしなくても下げても良いのではないかということも言えるということなんですよ。私はここまで計画の修正を求めることを本委員会の基本方針とするという認識が無かったので、もしそうだとすると、今までのお話を受けて100校ではなくて、もう少し目標数を下げても良いのではないかと、私たちが評価の時に申し上げても良かったのかなということなんですよ。

○今のご意見を受けると、「83校に至っているが」の後に、「目標の100校の是非の見直しを含め、引き続き充実に進められたい」という風に変えることにしましょうか。

△現状について補足させていただきますと、グローバル推進の職員の数も限られておりまして、今ご指摘があったようにメンテナンスをしていくのは非常に負担が大きくなっております。こちらにお諮りしていなかったことはお詫びしないといけないですが、欧米の大学への留学希望が増えており、そちらを開拓していこうことで、数ではなくて質の改善に取り組んでいるところです。

○では、先ほどのような修正で、語尾を変えながら○で変更をお願いできますか。  
それから、P 8の一番上の●が2つあるのですけれど、中身はこれは業務運営の改善のこの位置が良いのか、中身からすれば学生の関係ですから、むしろ教育の方のカテゴリに入れての方がおさまりが良くはないですかね。

△もともと大学の方で作っていただいています年度計画に対する評価ということで、大学の目標の段階で情報を発信する項目ということでこの項目に位置付けられていたため、ここで評価をしていただいたということです。

○もう一つご意見申し上げたいのは、前回私が総論の所で、黒字だけれども今後それを召し上げるとか、公金を減らすことに対する市の姿勢に牽制球を総論の所で入れたらどうかという案を申し上げて、何人かの方にはご賛同いただいたが、全体をもう一度見直しましょうということで今日に至っています。今回のこの案は、どこにも入っていないのですけれどどうでしょうか。私が前回申し上げた案に…するわけではないのですけれど、たまたま議事要録のP 4の中段の○の意見で、コロナ補助金っていうのは、いつまでも続くものではないよ。だから去年、今年補助金をたっぷりもらったから、来年以降もそれだと思っちゃいけないよというのがありますが、それはまさに大事な視点だと思いますので、そうすると、P 8の財務内容の改善に関する取組の○が2つあるのですが、2つの間に今の趣旨のことを入れてはどうか。例えば、前回の委員の発言を含め、私の前回の発言の訂正も含めての一つの案ですけれど、一番上の○は、黒字決算は大いに評価されるべきものと考えて、で終わっているんですね。それに引き続いて次の所に●で、「ただ今回の黒字決算は、新型コロナウイルス感染症がらみの補助金という特殊事情が多分に寄与したものであり、今後は一方で法人においては諸経費の見直し、節減に一層努めるとともに、他方で市当局においては、大学の発展・充実に真に必要な支援の充実を惜しむことの無いよう願っている」。市にケチるなよと一方的に言うのではなくて、大学は大学でやはり努力をお願いし、市は市で支援してよねと両方に申し上げるという案にしてはどうか。総論で言うと目立つというのであれば、財務内容の改善の所にさらりと一応委員会の意見として言う手もあるかなと思ったのですが、いかがでしょう。

○どこかに入れるならここでしょうね。

△事前にそういうご意見をいただいております。私の方では、一つは病院の方は非常に経営改善に努めていただいているのですが、コロナの中で通常医療とコロナの医療と一緒にやっていますので、何がどういう風に貢献して黒字になったのかというのが今年は非常に見にくい年になのではないかなと思っています。補助金があったのは確かですが、そのことによって病院の通常の経営努力が十分でなかったとは言えないと思いますし、だからといって補助金があったことは全く考慮されないのかということも難しいと思っております。客観的に見るのは難しいかなと思いました。

もう一点は、本市の支援の話ですが、今回の評価につきましては、たてつけ上、大学の3年度の業務実績について、大学が行った自己評価に基づいて、客観的に委員の皆様方に評価していただくということですので、本市からの支援の内容についてはご説明していない中で、どこまで実績評価で本市の支援内容に言及するののかということはあるかなと思います。前回もいろいろな意見がございましたけれど、ここではそこまで言及しなくても良いのではないかなというような意見もございましたので、控えさせていただいたものです。

○ただ、事務局がこれを作るのではなくて、委員会としてこういうのが出ましたということで、それがどれくらい財政当局でカチンとくるかは知りませんが、まあ事務局の責任ではないので、委員会としてこんな声もあったよということです。

○これは、委員会の責任で出す文章でしょう。委員長、委員が宜しいと言えば宜しいに決まっている。委員会の委員が発言して、それを事務局が遮ったなんていう話があれば、その方がよほどリスクですよ。

○今の部分のすぐ下の所の評価Aの所の最初の○の所に、日本医療機能評価機構と大学機関別認証評価とを受審し、機関別評価を受審した結果とあるのですが、「AとBを受審しCを受審した結果、このようです」と日本語が良くわからなくなってしまう。これは直した方が良いのではないですかね。

△今日は度々そうした意見をいただいておりますので、もう一度今回の報告書自体について、バランスや表現言い回し、同じ内容のものを別な言葉で言い変えてしまっている等、この辺りを改めさせていただければと思います。

○今のところ、「受審し」の後の、次の「受審した結果」まで消すのではダメですか。AとBとを受審した結果、適合判定を得ており、適切な対応に努めた。

△それで結構です。

○もう一回この案件を次回やるのも時間的に難しいでしょうから、できれば今日FIXしたいですね。若干てにをはの整理はお任せしますが、先ほど来、いろいろ出た修正意見等を踏まえて、事務局の方でご訂正の上まとめていただけますか。

△わかりました。

○では審議事項の2は終わりたいと思います。次の審議事項の3に入ります。事務局の方から資料ご説明をお願いします。

### ※議題3について<資料3、4>

(事務局より資料3の説明)

(法人より資料4の説明)

#### 【法人】

△修正があります。P2の医学研究科の指標に、「新卒受験者の国家試験の合格率」とありますが、「修了者の助産師国家試験合格率」と直しておきたいと思います。

○前回もお話があったりして、議論したのですが、もう一回共有したいと思いますのは、先ほどの評価の報告書は当委員会の責任においてまとめて、議会に提出されるということですが、今お話があった中期目標、中期計画に対して意見を求められていますが、お手元にあります資料の中に地方独立行政法人法というのがあって、その第25条2項で、中期目標を定めそれを変更しようとするときは、あらかじめ評価委員会の委員の意見を聞くとともに、議会の議決をしなければならない。つまり当評価委員会の意見を聞くべし。意見を聞くんですから、その通りやれとは書いていないので微妙なのですが、今求められているのは我々が感じている意見を言ってちょうだいと言うことです。もうひとつは78条の2、設立団体の長は、公立大学法人における中期目標を定め、またはこれを変更しようとするときは、あらかじめ当該公立大学法人の意見を聴取、当該意見に配慮しなければならない。大学に意見を聞いて、それは聞き捨てではなくて、ちゃんと尊重し、配慮しなければならないという規定があります。他方、第4項には設立団体の長は、公立大学法人にかかる中期計画について、これを認可しようとするときは、あらかじめ評価委員会の意見を聞かなければならない。先ほどの中期目標を定めるとき、大学の作成する中期計画を許可するときは、当委員会の意見を聞かなければならないという規定があります。当委員会は意見を言うだけであって、それをどう受け止めて中期目標を定めるか、あるいは中期計画を定めるかというのは、設置者である横浜市当局の責任ということになります。ということを前提の上で、お気づきの点をお話していただきたいと思います。

○市の素案の方のP2で、(1)研究力の強化で、若手・女性・外国人研究者等の採用・育成及び支援を進めるというのは、この間拝見した時には無かった記載だと思います。おっしゃることはもっともだと思いますが、若手・女性・外国人研究者以外の人はどうなんだと

いう歪んだ見方をしてしまう人もあると思うので、主旨としては教育、研究に奥行きを持たせるために、研究者、教育者等のダイバーシティを進めるとかそういう表現でもよろしいのではないかと思います。

○私が気づいた点を申し上げますが、一つは中期目標についてですが、(1)～(5)までいろいろあるんですけど、それぞれがもっともなんですけれども、順番がごちゃごちゃしていて、(1) 未来を担う人材の育成、これはもっともなことなんですけれども、次に(2) 地域医療を担う人材の育成、(3) 意欲ある多様な学生の確保、(4) 教育の質の保証、(5) 社会人の学びなおし。大学というのは入口があって在学中があって、卒業・就職の出口があるという流れですけど、(4)の所にディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーとひとまとめにしてあるんですよ。それはそれで良いですけど、(1) 未来を担う人材の育成、(2) 地域医療を担う人材の育成は、在学中の教育はどうするかということを書いていて、(3)は入口のどういう学生を確保するかということですから、順番がごちゃごちゃしていないかなというのが気になりますが、いかがですか。あと前も申し上げましたが、(3)の学生の確保というのが新たに入ったのは良いんですけど、私学でよく定員割れがあって、今年もニュースになっていますが、国公立も他人事ではないんですね。今18歳人口がどんどん減っていますから、国立だろうが公立だろうが、学生に選ばれない大学は淘汰されていかざるを得ない。そのために横浜市立大学としてどう魅力づくりを練り上げて発信して、魅力を吸引力として学生を集めることはとても大事なことになるので、学生の確保をしっかりやった方が良い。評価をする時にいろいろな指標を作られるときに、今まであまり志願率とか学生の確保の状況が当たり前に入っているから要らないやということなのでしょうけれど、指標としては出しやすいデータですよ。本当は、専願率とか細かいデータがあった方が良いでしょうが、入り口段階での指標づくりの為に学生の確保はしっかりやった方が良いでしょう。

それから中途段階で、経済的事情だけじゃなくて、やはりこの大学じゃなくて専門学校に行きたいとか、大学によっては、中退率や除籍率や途中段階でのドロップアウトがどれくらいあるのか無いのかということも大事な指標なんじゃないかなと思います。従来やっている学生満足度調査というのも一つの目標になる。そういう指標として作りやすくなる、皆さん手間暇かけて忙しくする必要はないですが、我々が評価しやすいデータを揃えていただいて、AなりSを貰えるようにしていただきたいという気がしますので、そこはどういう指標を作るかということイメージしながら、中期計画や中期目標を作られた方がお互いやりやすいのかなと思います。

もう一つは研究について、研究力の強化というのを入れていただいたのはありがたいと思いますが、説明文として高度な重点分野研究、先端研究分野とか大事なのですが、これだけだと漏れるんですよ。日本国政府でもよく重点分野とかやっていますが、重点○分野というのは学者には非常に評判が悪くて、目につきやすいところだけしかやっていない、もっと大事なところがたくさんあるわけで、それを落としてはいけない。それも入れてちゃんと研究面の評価をした方がいいのではないかな。本学の場合は文系理系合わせてずいぶん幅広い研究者がお揃いでいらっしゃいますから、先端でもない、重点でもない研究者がでれっとならないように。指標としては、論文の発出数とか、科研費の申請率・採択率だとか、そういう指標で活性化しているかどうかというのは見れますよね。(1)の研究力の強化の所の、「知の拠点」として各分野の各個研究ぐらいい入れたらどうかという気がします。そのうえで、重点分野とか先端研究とかちゃんとやりましょうねという言い方をしたいかなという気がします。

それから、研究の所のあちこちに横浜をけん引するとか、(3)の所の横浜市が直面する様々な課題とか、P3の5(1)の市民により支えられた大学、横浜に貢献する大学を目指す、という言い方、こんな見識で良いのか。国際都市横浜とか、横浜市大がグローバル面の推進を図りながら中身を充実しようという時に、横浜に貢献するのでなければ来るなということなのですかね。横浜市大にどれくらい横浜市内からの進学者がいるかは知りませんが、横浜市の外、あるいは神奈川県の外、日本の外から来る学生を揶揄させるような表現の仕方はいかななものか。これから魅力ある大学づくりをしようという時に、横浜市のだ田舎のミーイズムの大学なのかという印象を与えこそすれ、学生を呼び込む材料にはならないのではないかな。学生だけでなく研究者もそうですね。縮こまった大学だという印象を与え、研究者を集めるのも苦労されることになりはしないかと危惧しています。一小意見として

申し上げた次第です。また地域貢献の所の「市民により支えられた大学」とか「横浜に貢献する大学」横浜市なのか横浜市民なのかよくわかりませんが、横浜に貢献する大学という言い方はやめた方が良いでしょう。むしろ市立大学ですから、いくら市民と関係があるので、市民が信頼する、あるいは市民が誇りと思えるような大学づくりとか、市民目線、学生目線での関係を言った方が分かりやすいかなという気がします。

P3の地域貢献の(3)で、市内企業や地域社会との対話の機会を設けてカリキュラムの検討・見直しというの、これは実務経験をもっとつけてくれと言う意味らしいけど、この原文のような形だと地元から言われたらカリキュラムを見直すんだという、ヘンテコな大学だと受け止められ、マイナスのイメージしかないような気がしますね。教育の自由は各大学にあるけれど、それを産業界から言われた、あるいは商店会の人から言われたからハイハイと聞いて直すような大学だと、そんな風に受け取られるような気がしますね。P4の(3)のガバナンスの所にも「横浜に貢献する大学」とありますね。P5その他の所で(1)新設・再編学部の効果の検証とありますけれど、それは大事なことだと思うのですが、組織体として新設学部だけが問題ではなくて、旧設学部だって絶えず見直し検討が必要な部分がありはしないのか、という印象を受けます。この書き方としては、「既存学部を含め、特に新設学部については」とすればはっきりするのですけれど。

それから、財務内容の所の(1)外部資金の積極的獲得、(2)経営基盤の強化がありますが、これを受けて大学側で中期計画を作るとすれば、外部資金獲得のための計画的戦略的な体系整備というのは両方だぶっていますね。それは(1)(2)の目標の表現がだぶっているからなので、むしろ外部資金の積極的獲得を含む経営基盤の強化とか、(1)(2)を一つにしたら大学の方の中期計画もまとめて書きやすいし、机上もだぶらなくて済むような気がします。

それから自己点検評価の書き方の点ですが、P5の最後のところなので、全教職員との共有・徹底を図るとするのは、何かお上からのお達しで、教育職の皆に暗唱させるような印象を受けてしまうので、ここはもうちょっと別の表現で、教職員がベクトルを一つにして取り組むようなそういう意識の共有化を図るとか、もう少しマイルドな表現は無いのかなと個人的にはします。感想だけですが以上です。

○今のお話を受けて、基礎科学の重要性をもう少し文章だけでも良いのでわかるように文言をどこかに入れておいていただきたいと思います。

それから、ガバナンスの所でお伺いしたいのですが、P4の(3)の「横浜に貢献する大学」を目指し、組織目標を明確にするとともにとありまして、なかなか大変なんだなと思います。大学のIV法人経営の所で、(1)①ガバナンス強化、②内部統制システムの運用と書いてありますけれど、内部統制システムというのはどういうことなのか、ちょっと怖いようなイメージで、中身を知らないの。実際にはこれはどういうようなことをやっているのか、あるいはこれからやるのか、教えていただいても良いですか。

△内部統制システムというのは、一般的に今経営の分野で言われているもので、ごく簡単に言えば、自己点検の継続的なシステムをきちんと作ることで、財務面、経営面、4つの目的の達成のために、組織体において組織構成員が自ら点検していくという仕組みを構築していこうというものです。

○自己点検をどう回していくかというシステムをきちんとやりましょうという話で、わかりました。

△ガバナンスについて、国立大学と私立大学はガバナンスコードがしっかりできているのですが、公立大学は現在ございません。公立大学協会で策定中で、多分今年度中に全国の承認を経て発行されます。かなりしっかりしたもので、国立大学のものを基礎に作っておりますけれど、地域貢献等、公立大学ならではの部分も入っておりますので、それを参考に本学もガバナンスコードを定めていきたいと思っております。

△ご意見いただきましてありがとうございます。私どもの方でも新たに追加した点について、ご意見いただきましたけれど、十分練られていない点があったかもしれません。ご意見いただきながら考えていきたいと思っております。最後の自己点検等については、別途でお話

ありましたので、そういったご意見を踏まえて対応させていただきたいと思います。こちらの中期目標については、今回ご意見をいただいたものを反映して素案という形にまとめさせていただいて、市会の方にご説明をしてご意見をいただきます。その後市民意見募集をして、その結果を踏まえまして、まとまった段階で10月末にこの評価委員会の方に、その中で修正などを加えましてもう一度お諮りさせていただきます。その後議案の形にしまして、12月に市会の方に出させていただきますという段取りになります。

△1点よろしいでしょうか。

P5その他業務運営に関する重要事項の(1)を確認させていただきます。

(1)新設・再編学部の効果の検証の①で、これはデータサイエンス学部についての記載かと思います。「医学・理学・経済などの多様な応用分野を持ち」とありますが、データサイエンス学部の学位審査は、理学と経済学となっております。医学についても今後取り入れていきなさいというご主旨なののでしょうか。

△私どもの方では、データサイエンスというのは、データサイエンス学部だけで成り立つものではなくて、対象となるデータについて、ヘルス、科学、社会経済のデータ等を分析することで、新たな価値ができるということを伝えようと考えたものです。申し訳ありません、細かい学位の申請の基準ということよりは、設置者としてはそういう理念を実現させていただきたいという意味で書かせていただいたものです。

△細かい話になりますが、医学の教員がデータサイエンス学部にはおりません。研究科はできるのですが、学部の方は教員を採用しなければいけないとか、医学部に協力していただかなければならないといった話になってくるかと思っておりますので、確認させていただきました。

ありがとうございました。

△恐らくこの文面は、大学院も含めてのデータサイエンス系として、こういうことをして欲しいということなのではないかと思っております。そこまで細かく、「大学院は～、学部は～」とすると、煩雑かなという気もしました。大学院の方には医学系の教員もおりますので、この記載で個人的には通ると思っております。

△見出しが学部となっておりますので、確認させていただきました。

△そうですね。

△本学の定款には、「横浜市民及び地域社会はもとより、世界に貢献する大学」となっております。これは横浜市の議会で認められたものなので、この言葉を活かさせていただきたいと思っております。

○この評価委員会の意見は、法律の規定だと、聞くだけですけれど、大学側の意見は尊重しないといけない義務が市側にありますので、どうぞ皆様これは変だということはどうもおっしゃって、うまくまとめていただければと思います。

とりあえずこの議題については終わりにして、最後の議題に入りますけれど、資料の5について簡単にお願ひできますか。

#### ※議題4について<資料5>

(事務局より資料5の説明)

○この「また」のところは、新しい第4期の目標に対する委員会の意見で、第3期の中期目標終了時の評価委員会の意見とするということですか。

△中期目標の期間が終わった段階で、事業を見直してやめるか、大学の方の業務をやめるかどうかということを所要の措置というふうになります。所要の措置を取ることについて、評価委員会の皆さんの意見を聞くということになっています。今回の所要の措置につ



いては、私どもの方では、継続を前提としていますので、中期目標を策定しているということで、所要の措置に代えさせていただきたいということですし、皆様に中期目標についてご意見をいただいていることで、それに対するご意見を聞いたということにさせていただきたいというものです。

○第3期中期目標期間の評価案は、本日でまとめさせていただきますね。まとめた際にシャットダウンしたらという声は一言もないので、逆に第3期の目標期間における評価をもって、この評価委員会の意見であったとはできないのですか。第4期はこれからのことで、今入れる意見と言いましたけれど、それは存続を前提にした意見で、何かちょっとピントがずれている気がするんですけど。

△法律の規定の解釈は、第3期のみなし評価というのを去年にやりましたが、それを踏まえて市の方が、これはもうやめさせようとかということを取る時には、意見を聞きなさいと言うことです。やめさせることを考えていないということ第4期目標策定に入ったということで代えさせていただき、今回第四期中期目標について評価委員会のご意見を伺っていることで、それに対する評価委員会の意見を聞いたということに代えさせていただければと思います。うまく説明できていませんがそういうことです。

○最後に、これで終わりなのですけど、冒頭の議事要録で、P9の発言で8行目に「市大病院に行けば最後の砦としてちゃんと救急に回してくださる」とありますが、文章からして変なので、「救急に回してくださる」ではなくて、「診療してくださる。」と修正していただけませんか。

他にお気づきの訂正やご意見がございますか。  
無ければこれで終わりたいと思います。

○ひとつだけ。この間の議論の中で、横浜市立大学が、横浜にローカライズする話と、国際都市というのであればもっとグローバルないしインターナショナルという広い世界へと話を展開し、学問としてより普遍的な部分に食い込むような話との二つがあって、何となく錯綜しているとは言いませんが、どっちがどっちなんだろうという重みづけみたいな話になっているように思えてずっと聞いていたのですが、先ほど、公立大学のミッションというか、コードのようなものがもうすぐ出るとおっしゃいましたよね。そこにはその大学の存在する地域に、またはそこに存在するがゆえにかくかくしかじか、「だからこのよう」というものが入っているんですね。

△入っています。

○実は、公立大学法人横浜市立大学第3期中期計画の策定にあたってという文章の中に、「国際都市横浜とともに歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する、市民の誇りとなる大学を目指す」とある。これはミッションですよ。もし国際都市横浜という部分を無しにして、例えば市民とともに歩み、～と書いてあったら、どこの大学でもOKですよ。結局もともとのミッションが何となく横浜を意識しているんだけど、横浜だけに意識していないような、そういうミッションなので。

△ミッションの下に基本方針がありまして、そこに「世界に羽ばたく人材の育成」とあります。地域も大事だけれど、育成する人材は世界を開拓する人というイメージで市大の当時の方々は考えられたのだらうと思います。

○おおもとの憲法たる理念、つまりミッションと今回の評価そのものは置いておいて、今後のことをいろいろ考える時に、ミッションの部分が、横浜から世界に羽ばたくという横浜についての部分を、私の町からと入れたらどこでも良くなりますよね。つまり何を言っているのかというと、横浜に貢献するというあたりを、具体的な、つまりもうちょっと本当の意味で横浜を意識するみたいなものに変えていかないと、この議論はまた起こるのではないかなと思って聞いていた次第です。公立大学の方々が皆で決めたものがもし出れば、

	<p>それをもとにしてこのミッションそのものをもう一回練り直しても良いだろうと思って、最後の最後に強く思ったので発言しました。</p> <p>○時間なので、これで終わりたいと思います。</p> <p>※事務局から次回日程の説明</p> <p>終了</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料]</p> <p>資料1 第91回法人評価委員会・会議要録(案)</p> <p>資料2 令和3年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果(案)</p> <p>資料3 横浜市の策定する「中期目標」素案について</p> <p>資料4 公立大学法人横浜市立大学 第4期中期計画策定 進捗状況について</p> <p>資料5 第3期中期目標期間終了時の検討についての意見について</p> <p>[参 考]</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>